

項目		届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	工学院大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	コウガクインダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F113310102993
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	東京都
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	インターンシップB
	学部・研究科等名	全学部対象(先進工学部、工学部。建築学部、情報学部)
	担当教職員名・役職	二上武生・教授、横川裕子・教務課員、山口要二・就職支援課員
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	9
	受入企業等数	8
	受入企業等名	ケマーズ(株)、コニカミノルタ(株)、小松製作所、ユー・エム・アイ(株)、キャリアマム、シーズンプレイス、まちづくり三鷹、町田新産業創造センター、
	インターンシップの分類	6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ
		8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ
9.中小企業でのインターンシップ		
10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ		
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
		2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
1-3.上記回答内容に関する詳細	本学では、インターンシップ単体ではなく、学生のキャリア形成支援全体の中に位置づけられている。学生が将来のキャリアに関連した就業体験を行うこととし、企業等における業務の従事、課題の解決等を体験すること等、「低学年インターンシップ」「学外研修」それぞれ狙いを定めて行っている。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している
		6.当該インターンシップは、選択科目として実施している
		8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部1年
大学 学部2年		
2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 1単位	
	大学 2単位	

2-5.上記回答内容に関する詳細	キャリア支援科目として、選択必須科目として休業期間中に実施、 実習期間 10日以上で2単位 実習期間 5日以上で1単位
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	学生のインターンシップが円滑に進み、インターンシップの教育的効果が発揮されるよう、学生が企業で実習期間中であっても休業中も含み常時大学職員が学生に対して適切な関与（モニタリング）できるような仕組みが構築されている。
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	「自己紹介書作成講座」及び学生とキャリアカウンセラー1対1による「添削面談」を実施。人数も少ないため、面談という形で個々のコミュニケーションをとりながら学生の動機づけ、目標設定、学生と企業双方との目標のすりあわせを行っている。企業理解を深めるため受入れ企業の概要、特徴をまとめる指導を行っている。教員による「ビジネスマナー研修」を実施。事前に学生の動機づけ・目標設定や学生・企業双方との目的のすり合わせをおこなっている。学生の目標設定を大事にしている。
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	職業理解、学業理解、能力開発の視点からインターンシップ振り返り授業を実施する。授業で学生は、各自企業での成果報告をおこなう。日誌、成果報告書の提出をさせ、企業から提出された評価表は、教員と学生で個別に確認を行ない振り返りをさせる。

	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	企業より「評価報告書」を提出いただくことで各学生の状況（学生の動き、実習内容、対応能力等）をモニタリングできている。事前学習、事後学習、モニタリングが体系的に設計されている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（例：ルーブリック）を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	事前学習は、参加動機を高めたり、参加目標の設定をおこなったり、実習参加にあたっての姿勢を作る。 事後学習は、振り返り、成果発表を課すことで学んだことと今後の活かし方を言語化させて教育効果の向上を図っている。企業に依頼している細かな基準の評価表は教員、学生に共有し振り返りの資料として活用している。 事前・事後で学生の効果がわかるきめ細かなアンケートを取っている。学生たちがインターンシップの体験を可視化し、きちんと振り返りができる仕組みになっている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	実習5日間＋事前授業＋事後授業
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	原則としてインターンシップの実習期間が5日あれば1単位の単位認定をおこなっている。5日間で仕事において必要な能力を理解し、大学で学んでいることがどういかにされるか。と今後何を学んでいくかが振り返られ今後の動機づけとしてキャリア支援プログラムの体系に位置づけられている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している 7.その他
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	マッチングの為、大学で企業説明会をおこなった。

	6-3.上記回答内容に関する詳細	<p>大学と企業が協働しての取組でありプログラムの策定・実施を企業のみ に任せるのではなく大学側も積極的に関与し学生に対する教育適効果の 充実に努めている。企業には、学生がインターンシップ実習中に作成す る「日誌」の確認、コメント記入や「受入企業の事業内容等に関する事 前調査内容」の添削、インターンシップ終了後に働きぶりを評価する 「評価書」の記載を依頼している。</p>
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されて いるシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://ku- port.sc.kogakuin.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml
問 い 合 わ せ 先	大学等名	工学院大学
	担当部署名	学事部教務課
	担当者役職名	低学年インターンシップ担当
	担当者氏名	横川 裕子
	電話番号	042-628-4883
	メールアドレス	kyomu@sc.kogakuin.ac.jp